

様式第5号

## 出張調査報告書

平成28年8月26日

松伏町議会議長 佐藤永子様

会派名 自民クラブ

代表者氏名 高橋昭男



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成28年8月4日から平成28年8月5日まで
2 視 察 地	(1) 新潟県見附市 (2) 新潟県糸魚川市
3 視 察 目 的	(1) スマートウエルネスみつけ健幸事業、「みつけ一番星」 「オープンスクール」教育事業、道の駅「パティオに いがた」の概要 (見附市) (2) 子ども一貫教育(コミュニティスクール、キャリア 教育、ジオパーク教育)の概要、市営博物館「フォ ッサマグナミュージアム」施設見学 (糸魚川市)
4 視 察 者 氏 名	高橋 昭男 佐藤 永子 松岡 高志 田口 義博 増田 等
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

松伏町議会  
自民クラブ 行政視察日程 (新潟県見附市・糸魚川市 2016.8.4,5)

○第1日目 8月4日(木)

見附市視察研修

南越谷駅 又は せんげん台駅 9:14 発 → 春日部駅 9:19 着



(JR線)

(東武線)



乗換

大宮駅 9:45 着 ← 春日部駅 9:23 発



乗換

10:18 発 大宮駅



3 駅

JR新幹線 とき361号

11:32 着 長岡駅



乗換

長岡駅 11:43 発 → 見附駅 11:55 着  
(3 駅 JR信越本線)

道の駅「パティオにいがた」見学及び昼食

見附市役所 (視察研修 13:30~16:00)

見附駅 17:05 発 → 上越妙高駅 18:22 着

(6 駅 JR特急しらゆき8号)



乗換

18:35 発 上越妙高駅



JR新幹線 はくたか571号

18:47 着 糸魚川駅



徒歩 860m

宿泊先 ホテル ルートイン糸魚川 TEL: 025-553-1161

〒941-0067 新潟県糸魚川市横町 2-13-2

○第2日目 8月5日(金)

糸魚川市視察研修

ホテル ルートイン糸魚川

1200m

糸魚川市役所 (視察研修 10:00~12:00)

市内視察 (フォッサマグナミュージアム) 後 駅に移動

15:40 発 糸魚川駅

7 駅 JR新幹線 はくたか 568 号

17:26 着 大宮駅

乗換

大宮駅 17:48 発 春日部駅 18:10 着

(JR線)

(東武線)

乗換又は直通

南越谷駅 又は せんげん台駅 / 南桜井駅

各自で松伏へ

松伏町議会

自民クラブ 行政視察日程 (新潟県見附市・糸魚川市 2016.8.4,5)

## 5 視察結果

### 視察報告書（見附市①）

日 時	平成28年8月4日（木）午後1時20分から午後4時
視 察 先	新潟県見附市
視察項目	スマートウエルネスみつけ健幸事業
視察目的	<p>少子高齢化が加速する日本の中において、松伏町も3万人を下回る状況下であり、地域経済、地域産業の担い手、行政運営を支える財政に大きな影響が懸念されている。見附市は「健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」の指定を受け、「そこに住んでいるだけで健康に」施策を示した。その内容はどのようなものか。松伏町の「健康まつぶし21計画」は平成28年度が最終年度となるが、今後の施策をどう打ち出していくか、課題を検証する。</p>
視察事項	<p><b>（1）健康事業「スマートウエルネス」</b></p> <p>Smart Wellness City は超高齢化人口減社会の克服法としての社会技術の開発を目的とした新しい都市モデル構築を目指す社会実験的な事業である。</p> <p>Smart Wellness City 首長研究会加盟の7市（新潟県見附市、三条市、新潟市、福島県伊達市、岐阜県岐阜市、大阪府高石市、兵庫県豊岡市）及び、筑波大学・（株）つくばウエルネスリサーチと共同で「健幸長寿社会を創造する」モデル、パターンを導き、その成果を日本全国に適応可能な社会技術を開発しようとするものである。</p> <p>社会技術とは社会生活を行うことで自然と健幸（<i>健やかで幸せにいきること</i>）が得られるような住民、自治体双方の価値観の改革（社会イノベーション）である。</p> <p>上記共同体は政府が創設した地域活性化総合特区に平成23年9月に「健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」を申請し、同年12月22日に指定を受けた。地域活性化総合特区とは政府が平成22年6月18日に閣議決定した「新成長戦略～『元気な日本』復活シナリオ～」に基づき、地域の責任ある戦略、民間の知恵と資金、国の施策の「選択と集中」の観点を最大限活かし、規制の特例措置や税制・財政・金融上の支援措置等をパッケージ化して実施する「総合特区制度」創設を指す。</p> <p>また、Smart Wellness City 首長研究会は「健幸」をこれからのまちづくりの基本に据えた政策を連携しながら実行し、新しい都市モデル「スマートウエルネスシティ」を目指すため、志を同じくする全国の首長が集まり、平成21年11月に発足した。平成28年5月現在の会員数は33都道府県61自治体である。</p> <p>目標は『自律的に「歩く」を基本とする『健幸』なまち（スマートウエルネスシティ SWC：歩きたくなる、歩いてしまうまちづくり）を構築することにより、自然と体を動かすことが増え、高齢化・人口減少が進んでも持続可能な先進予防型社会を創り、高齢化・人口減少社会の進展による地域活力の低下を防ぎ、もって、地域活性化に貢献することを目指す。』としている。5年後のアウトカムとしてSWCが開発する新指標である健幸度（体力、日常活動量、ヘルスリテラシ、ソーシャルキャピタルなど）の25%の向上と医療費・介護費用上昇率（医療費、介護給付金、要介護認定など）20%の抑制を具体的目標として設定している。</p> <p>事業の目的は 『「歩くこと」基本とする『健幸』なまちの実現』である。そのた</p>

めに、「便利さ」の追求から、「自律」への価値観の交換が求められるとしている。便利さとは行き過ぎた省力化、生活習慣病の増加、医療費等社会保障費の増大であり、自律とは自然に体を動かす生活、健康寿命の延伸、ソーシャルキャピタルの高い「まち」、元気で役割を持つ高齢者、医療費の適正化のある社会であるとする。

見附市では健康に運動が必要であるとの観点から市民の運動実施の状況・意識調査を行い、「普段の生活で自然と必要な運動量が満たされる『歩いて暮らすまち』へ「健康長寿・スマートウエルネスシティ（SWC）」の理念でまちづくりを転換するとした。ウエルネス（＝健幸）をこれからの街づくり政策の中核に据え、健康に関心のある層だけが参加するこれまでの施策から脱却し、市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防可能とするまちづくりを目指している。

まち全体の「健幸」SWC（スマートウエルネスシティ）施策を「これまでの健康施策（いきいき健康づくり）4本柱」に「まちづくり全体の4つの要素」を加えて展開し、住んでいるだけで健やかに幸せに暮らせるまちづくりを目指している。

#### 【これまでの健康施策】

##### 1) 食生活

- －食事がいかに大切か知っているまちプロジェクト（H15～）
  - ・日本型食生活のすすめ
  - ・地消地産
  - ・給食に玄米入りごはん、7分つきご飯を導入

##### 2) 運動

- －健康運動教室（H14～）
  - ・体力年齢の若返りと医療費抑制効果を実証

##### 3) いきがい

- －ハッピーリタイヤメントプラン・プロジェクト（H16～）
  - ・市民グループが中高年の仲間づくり、生きがい探しを応援
  - 多彩なメニューで交流促進

##### 4) 検診

- －健康の駅（H20～）
- －小児生活習慣病予防事業（H11～）

#### 【まちづくり全体の4つの要素】

##### 1) 健康になるまちづくり（道路、公園、景観、交通）

- －歩きたくなる道路等の整備：歩きたくなる、出かけたくなるまちづくり
  - ・景観
  - ・公園
  - ・自転車通行帯 など
- －地域公共交通体系の整備：過度に車に依存しない交通体系
  - ・コミュニティバス
  - ・乗合タクシー
  - ・レンタサイクルなど

##### 2) 地域が元気なまちづくり（経済活動、産業育成、交流）

- －産業振興、雇用機会の創出
  - ・企業誘致
  - ・企業交流会
  - ・地消地産の取り組み
  - ・販路の開拓



- ・まちなか賑わい など
- ー交流
  - ・道の駅（パティオにいがた）・川の駅 ・まちの駅ネットワーク など
- ー地域コミュニティの推進
  - ・地域コミュニティ組織の再編 概ね小学校単位

- 3) 環境に優しいまちづくり（ゴミの減量化、新・省エネルギー）
  - ・ごみの減量 ・廃食用油の回収 ・乾燥生ゴミを花苗と交換 ・EM 菌の活用
  - ・小中学校太陽光発電装置設置 など
- 4) 健幸を理解し行動するまちづくり（教育、啓発）
  - ・喫煙防止講演会
  - ・人間力をはぐくむ「四つ葉運動」
    - 本を読む習慣づけ 花と緑で心を育む
    - あいさつ運動 お手伝い
  - ・共創教育（地域とともにある学校づくり など）

SWC 施策を進める 7つのポイントと 3つの観点を次のように提示している。

【SWC 施策を進める 7つのポイント】

- ① 社会参加（外出）できる場づくり
  - ーハード面
    - ・人の交流拠点、外出の目的地
    - 市民交流施設 ネーブルみつけ、イングリッシュガーデン、ふるさとセンター
    - ・市民の「たまり場」
      - 道の駅パティオにいがた、ギャラリーみつけ、みつけ健幸の湯ほっとぴあ
  - ーソフト面
    - ・生きがい・社会貢献
    - 悠々ライフ、ナチュラルガーデンクラブ、地域コミュニティ、共創教育、健康サポートクラブ
- ② 中心市街地を中核とした賑わいづくり
  - 都市機能（運動施設、医療施設、福祉施設、商店街、公共施設）を集積し、歩いて過ごせる楽しくて便利な市街地
- ③ 歩きたくなる快適な歩行空間の整備
  - ・歩行者優先へ転換 ・歩く楽しみを演出 ・ウォーキング・サイクリングコースの整備・レンタサイクル
- ④ 過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備、生活の足の確保

- ー 中心市街地⇔既存集落・周辺地域 を結ぶ公共交通の整備
- ー 居住エリア⇔各種サービス施設 を連結する公共交通の整備
  - ・ 路線バス（広域） ・ コミュニティバス（市街地）
  - ・ デマンドタクシー（郊外） ・ コミュニティワゴン（地域コミュニティ）

⑤ まちをゾーニング

地方都市の持続のためのまちづくり基本方針策定 ⇒ 特定地域再生計画（H25～）

超高齢化・人口減社会に対抗できる「歩いて楽しめる市街地」と「持続可能な周辺地域」を整備

- ー 誘導施策例（・ 転入促進 ・ 住み替え促進 ・ リフォーム補助）

⑥ SWC 促進の鍵は人材

- ー 市民の健康づくりを啓発・サポートする人材の育成が必要

⇒ 健康都市実現を支える市職員のスキルアップと行動の変容を促す施策

⑦ 地域コミュニティ（共助）の構築と協働のまちづくり

ソーシャルキャピタルの高いまちへ

- ー 地域住民が主体となり地域づくりを行う仕組み。概ね小学校単位（H18～）
- 健康、防災、子育て、高齢者支援
  - ・ 地域の確かな絆づくり ・ 顔の見える関係を再構築

【3つの観点】

① ゾーン設定と機能別の誘導

中心部は歩いて暮らせるまちづくり

- ー 市街地を機能別に集約
- ー 持続可能な集落地域づくり

② 地域包括ケアシステムの構築

ー 自立生活の支援のもと、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができる体制を整備

③ 総合的な住み替え施策の推進

世帯別のライフスタイルに応じた住居の住み替え、転居を誘発する住宅施策

【その他】

① コンパクトシティの道路施策

- ・ 外環道の整備（通過車両の交通量を抑制）
- ・ 歩行者優先地域の設定（歩いて暮らせるまちづくり）
- ・ 歩車共存道路の設計（市道構造の技術基準）
- ・ 自動車通行帯やレンタサイクルシステム構築
- ・ 外環道や施設誘導サインのデザイン統一

・路面標示の統一

② 複数自治体連携型「大規模健幸ポイントプロジェクト」

新たな社会技術・大規模社会実証健幸ポイントプロジェクト(1ポイント=1円)

一貯まった健幸ポイントは3つのコースから選択可能

・見附市地域商品券 ・ポインタ(Ponta)ポイント ・社会・地域貢献(寄付)

視察内容

第1日目 見附市役所議会会議室にて(13:20から16:00)

正副議長欠席のため、議会事務局長の歓迎のあいさつの後、企画調整課田伏氏、夫馬氏より「スマートウエルネスみつけ健幸事業」について説明を受ける。

市の人口は10年前と比較し約2200人減の4万2千人、社人研の将来推計(2040年)は3万1千人26%の減、高齢化率9.8ポイント増の38.9%である。

見附市の健康づくり施策の4本の柱は

① 食生活 食がいかにか大切に知っているまちプロジェクト(H15~)

② 運動 健康運動教室(H14~)

③ いきがい ハッピーリタイアメント・プロジェクト(H16~)

④ 検診 健康の駅(H16~)

各種の測定のほかに、保健、医療、福祉、生活、経済、心に関する相談や情報提供

小児生活習慣病予防事業(H11~)

小4と中1生徒を対象に血圧、脂質、肥満度を検査。

小児の血圧基準「見附スタディ」確立

である。

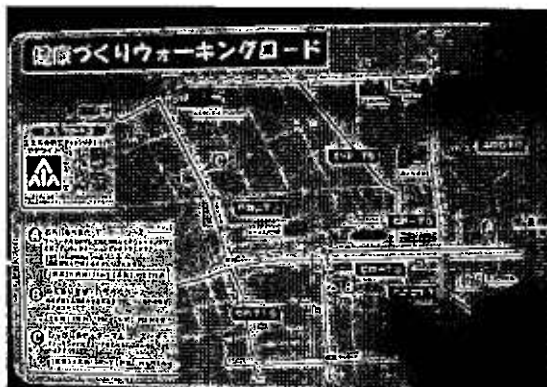
この取り組みの結果として・・・

介護認定率

全国平均、県平均よりも低い認定率。H27年度16.89%

県内でも1位ないし2位を維持している。

健康ウォーキング参加者は約1400人で頭打ちになっている。



見附市まちなか案内  
ウォーキングマップ

興味を示さない住民に対する動機づけ、継続参加者に対する支援の充実、健康維持は社会的な貢献であることの理解などの対策を行っていたが、事業効果は限定的であ



り、より多くの住民を健康にするために模索した結果、新しい都市モデル「スマートウエルネスシティ」を目指す首長研究会の発足（平成 21 年 11 月）に至った。会長は久住見附市現市長）

### スマートウエルネスみつけの推進

これまでの健康施策 4 本柱にまちづくり全体の要素をプラスした取り組みとして

- ① 道路、公園、景観、交通などの整備 … 健康になれるまち  
歩きたくなる道路等の整備。地域公共交通体系の整備。
- ② 経済活動、産業育成、交流 … 地域が元気なまち  
産業振興、雇用機会の創出。交流、地域コミュニティの推進
- ③ ごみの減量化、新・省エネルギー … 環境にやさしいまち  
H 2 2 年環境元年事業をスタート  
ごみの減量、廃油の回収、全小中学校太陽光発電装置設置、  
YM菌による生ごみ実証実験など 結果、水も空気も元気にする
- ④ 教育、啓発 … 健幸を理解し行動  
健幸教育・啓発・見附 1 8 年教育の推進  
喫煙防止講習会、健幸フェスタ、人間力をはぐくむ「四つ葉運動」、共創教育、  
などの実践

この 4 本の柱で、まち全体の「健幸」を SWC 施策へと繋げている。

見附市ではまちづくりの方向性を担保するため、条例を制定し、健幸に関する計画を策定している。

『見附市健幸基本条例』（H 2 4. 3）

市民一人ひとりの健幸の実現を目指す市の決意表明

『見附市歩こう条例』（H 2 4. 3）

歩くことを基本としたまちづくりの基本理念 全国でも先進的条例

『見附市道の構造の技術的基準を定める条例』（H 2 4. 1 2）

街区内道路は歩行者・自転車優先の道路構造へ

『歩いて暮らせる都市実現のために都市のスプロール化を抑制する計画』

（H 2 6. 2）超高齢・人口減少社会の先駆的なモデル都市構築を目指す

『健幸づくり推進計画』（H 2 6. 3）

健幸なまちづくりを体系的に推進

SWC 施策を進める 7 つのポイントは

- ① 社会（外出）参加できる場づくり

人の交流拠点、外出の目的地となる場、生きがい。社会貢献のできる事業（イベントなど）

高齢者の外出を促すエビデンス（東京都健康長寿医療センター新開省二部長調査）

毎日外出する高齢者に対し、ほとんど外出しない高齢者は

- ① 歩行が不自由になるリスクが4倍
- ② 認知機能障害のリスクが3倍
- ③ 死亡率 日常生活に支障のない場合 2倍  
障がいがあって外出ができない場合 4倍

という、2年間の高齢者追跡調査結果より積極的に外出や社会参加できる場所を用意することが、健幸なまちづくりにつながるのとことであった。

- ② 2つの街区の賑わいづくり  
都市機能が集積し、歩いて過ごせる楽しくて便利な市街地を形成する。
- ③ 歩きたくなる快適な歩行空間の整備  
歩行者優先への転換 道路構造、注意喚起、路面標示  
歩く楽しみを演出 景観整備、健幸ベンチ  
レンタサイクル 公共施設7か所で貸出・返却  
ウォーキング・サイクリングコースの整備  
広域コース 5ルート、ウエルネスコース 18ルート、  
わくわくコース 25ルート
- ④ 過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備  
路線バス、コミュニティバス、デマンドタクシー、コミュニティワゴン
- ⑤ まちをゾーニング  
特定地域再生計画 内閣官房、国交省、経産省及び農水省の課長、有識者からなる研究会開催。  
誘導施策例 転入促進者の住宅取得を助成  
住み替え促進を助成  
リフォーム補助
- ⑥ 人材育成 市職員のスキルアップのため
  - ・近隣三条市、十日町職員との施策自慢合戦
  - ・駐車場料金改定に合わせた行動の変容 徒歩又は自転車への変容を誘発  
結果2km以内の職員81%が実践する。
  - ・地域サポーター 職員ボランティアで地域コミュニティ活動に参画
- ⑦ 地域コミュニティの講築と協働のまちづくり  
学校（PTA）、区長会、各町会、消防団、民生委員、保健委員、各種町内団体による、地域住民が主体となり地域づくりを行う仕組みを構築  
である。

今までの施策によって医療費に現れた成果（H25）は

国保医療費一人当たり	国	見附市
	324,543円	317,923円
後期高齢者医療一人当たり	929,573円	727,363円
		(H26) 719,727円

であり、

	<p>「スマートウエルネスみつけ」の推進に、平成28年度からの見附市第5次総合計画の4つの基本目標と8つの重点プロジェクトが後押しをしている。</p>
<p>所 感</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急速に迫り来ている超高齢化人口減社会の克服法として新しい都市モデル構築を目指す事業として大変示唆に富んだ取り組みがなされていると感じた。</li> <li>2. 「健康長寿・スマートウエルネスシティ（SWC）」のまちづくり理念は普段の生活で自然と必要な運動量が満たされる『歩いて暮らすまち』への転換、過度の車に依存した生活から脱却するとともに、高齢者の外出を促す「歩いて暮らせるまち」への転換を目指している。「便利さ」の追求ではなく健康で幸せに暮らす力（健幸度）を自然と出せる「自律」を促す施策であり、社会の変革（イノベーション）を目指した取り組みである。 <p>松伏町でも高齢化人口減社会対策として様々な取り組みがあるが、「健康長寿・スマートウエルネスシティ（SWC）」の理念で整理分類し、まちの今後のあるべき姿を再構築することは、理念が明確になることにより、住民、行政の目指すべきまちづくりの将来像を共有しやすくなる非常に参考になる有効な取り組みに思われた。</p> <p>見附市においては1つの理念で、市の方針・施策が貫かれていると感じた。これによって、市民、行政、議会で行っている多様な考え、施策が点から線へ、線から面へと立体的なつながりを持って再構築されているので、市の方針、施策、将来像がわかりやすく理解されやすいようにも思えた。</p> </li> <li>3. 執行部の方の説明は理念をよく理解されており、振れがないように感じた。</li> <li>4. 実際に目に見えるまちのハード面やそれを支えるソフト面も共通の理念で貫かれて、社会参加できる場づくりが推進されているように感じられた。</li> <li>5. 国の施策や各種団体の試験的取り組みに呼応して、様々な施策を打ち出しており、予算を確保して市民サービスに努めていると感じた。また、これらの施策を通じて人材の確保とレベルの高い人材育成に努めているようにも思う。</li> </ol>

視察報告書（見附市②）

日 時	平成28年8月4日（木）午後1時20分から午後4時
視 察 先	新潟県見附市
視察項目	「みつけ一番星」「オープンスクール」教育事業
視察目的	見附市は、教育事業にも力を入れている。教育創造都市“みつけ”の目指す、基本理念、基本方針が保護者や地域にわたり周知評価されるとともに、全国トップレベルの教育水準を確保している。見附市の2つの教育事業を視察し、松伏町の教育課題を検証する。
視察事項	<p><u>みつけ一番星☆事業について</u></p> <p>見附市が平成27年から始めた、多様な先進的教育課題に対応するトップレベルの教育水準の確保を目指し、創意工夫を図り取り組む特色ある学校教育等について支援する制度。</p> <p><u>オープンスクールについて</u></p> <p>小規模校の特性を生かして、きめの細やかな教育を推進している3校を「オープンスクール」として認定し、他の学区からも通学を認めている。遠距離通学となる場合には、通学費の一部を補助している。</p>
視察内容	<p><u>みつけ一番星、オープンスクール教育事業</u></p> <p>教育委員会学校教育課武石課長さんの説明で、みつけ一番星事業はトップレベルの教育水準の確保を目指し、創意工夫を図り取り組む特色ある学校の教育活動等について、市単独で補助する事業を27年度からスタート。</p> <p>全13学校のうち、小中学校3校が指定を受けた。その中から1校の紹介がされた田井小学校（児童数32名5学級）である。</p> <p>テーマ 農作業を通じ、地域と学び、地域と汗をかく、新たな教育活動の実践</p> <p>補助額 150,000円</p> <p>地域全体で見守るという風土をさらに深化・拡充させるために地域とのふれあい給食や収穫祭（餅つき）等の地域に根ざす教育を展開し、地域との和をさらに呼び寄せる取組を推進した。</p> <p><u>オープンスクール教育事業は</u></p> <p>小規模校の特性を生かして、きめ細やかな教育を推進している3小学校をオープンスクールとして認定、他の学区からも通学を認めている。</p> <p>遠距離通学の児童には、月額2000円の助成金が出る。5km以上。</p> <p>19年からの事業で、21年は12名、28年度は2名となっている。</p> <p>学童施設の整備が充実、各学校の取り組む事業の成果が上がったなどの理由ではないかという。</p> <p>また、3校はみつばプラン校として認定し、小規模校教育振興八策に基づき3校とも知・徳・体すべてが全国比、他校に比べて高い水準にあると評価した。</p>

	<p>市は、教育創造都市みつけを目指し、基本理念と基本方針4つの柱を掲げる。</p> <p><b>基本理念は</b>  ふるさと見附を愛する子どもの育成を目指す  世に役立つことを喜びとする子どもの育成を目指す</p> <p><b>基本方針は</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子育て環境の充実</li> <li>② たくましく生きていく「生きる力」の育成  0歳から18歳までの成長を学校、園、保護者、地域がそれぞれの役割の中で連携・協力しながら子供たちの心柱を育てる。</li> <li>③ 地域の人材と資源を活用した教育の充実</li> <li>④ 快適な学びの空間、充実した教育環境の整備</li> </ol> <p>である。</p> <p>これらの方針に基づいた教育の成果として見附が「大好き」という子どもが増えていくとのことである。自然・伝統文化に学び「見附が大好き」と中学生で89%、小学生では95%となっている。松伏町では考えられない数値と想像する。また、具体的な行動への変化として市の消防訓練に中学生のボランティアの参加者が年々増加し、今年は92%の参加となっているそうである。</p>
<p>所 感</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市内小学校8校、中学校2校に特色ある教育活動を提案してもらい、優れた提案に支援を行うコンペを基本とした制度としている。支援金は決して多額ではないが、各学校が前向きに特徴ある学校運営に取り組むように動機付けを与える制度として有効と思われる。</li> <li>2. 人口約4万人の市で小中学校が10校ある。児童数32名、学級数5の小規模校、複式学級も採用されている。たとえ小規模校になっても学校の統廃合は考えていないとのことである。学校を地域の核とし、地域が学校を育てるとの強い意志をもって取り組みがなされていることは、児童、生徒数が減少していく松伏町の小中学校のあり方にとっても、大変参考になる考え方と思う。</li> <li>3. 小規模校を活かしてトップクラスの教育水準を目指し、オープンスクール制度維持のため教員の指導力向上に注力している。小規模校教育振興八策を設け、教員の学習のための放課後の勉強会（4時から夢塾、1回/月）、教師十ヶ条、外部からの授業の見直し、アンケート（1回/年）によっての見直しなどの努力により、学力、体力、徳育の面で全て全国比、他校に比べ高い水準にあるとのことである。教育水準向上のため、内向きにならず目を全国に向け、全国トップレベルを目指すという高い目標を掲げ、様々な具体的な施策を実行している様子を伺うことができた。</li> <li>4. 教育の基本理念と4つの基本方針のもと、地域を担う責任感の醸成、キャリアの育成、住民との交流により役立つことの喜びを感じる人材の育成へと好循環につながっている。松伏町においても今後この取り組みに習っていく必要があると思われる。これらの取り組みにより、地域を担う人材の育成確保、転出の防止、Uターン人口の増加、ふるさと納税率の安定的向上が見込まれると思う。</li> </ol>



5. 全国に先駆け、保護者、地域からの「学校応援団」づくりから、学校が地域の核となり、地域が学校を育てる「コミュニティ・スクール」を市内全校に展開している。地域が権限を持って学校教育に参画し、地域支援を担保された取り組みである。保護者、地域の十分な理解と協力が必要なので、松伏町への導入に際しては十分な検証が必要と思われる。
6. 視察後、市民交流センターとして、スーパーの後を利用した施設である市役所隣のまちの駅（ネーブルみつけ）に立ち寄った。まちが生き生きとしている。健康で明るいまちづくりに職員も含めて取り組んでいる姿勢が見られた。学校の学習内容を見ても郷土を思う子どもをはぐくんでいる姿勢が見えた。防災訓練は中学生の約9割が参加し、地域を自ら守るという精神も、幼少の時から地域の学習をし、地域に支えられて育ったということを理解した結果ではないかと思う。

視察報告書（見附市③）

日 時	平成28年8月4日（木）午後1時20分から午後4時
視 察 先	新潟県見附市
視察項目	道の駅「パティオにいがた」について
視察目的	道の駅「パティオにいがた」の概要調査
視察事項	道の駅「パティオにいがた」取り組みに至る経緯、内容
視察内容	<p>苜谷田川防災公園 道の駅「パティオにいがた」について、農林創生課本田係長より説明を受ける。</p> <p>平成16年の水害により苜谷田川が破堤し、河川改修により発生した用地を地域の防災及び交流の拠点として基盤整備がされた。ここに道の駅を整備し交通情報の提供や休憩施設のほか、地元地域振興施設を一体的に整備し賑わいのある観光交流施設を創造した。</p> <p>昼食会場として事前に利用していたので、説明もすんなりと聞くことができた。</p> <div data-bbox="424 913 916 1198" data-label="Image"> </div> <p>道の駅「パティオ新潟」 食事場所の「農家レストラン」</p> <p>平成24年度25年度の2か年事業、事業費9億9900万円で社会資本整備総合交付金（55%）を受けた。</p> <p>道の駅は、新潟市ですでに同様に事業を受けている民間企業に委託、2期目に入っている。27年度入場者数111万7766人 売上高、381,803千円 支出額 385,143千円 △3,341千円の赤字である。今後、黒字化になった場合、市に1/2を返還する契約を結んでいる。農産物の売り上げは会員販売、仕入れ販売、計の順で254,553千円、46,972千円、301,525千円 支出合計額は289,506千円で1200万円の黒字である。道の駅以外の施設は、NPO法人に委託している。尚、この道の駅は「スマートウェルネスみつけ」につながる施設として位置づけられ、各施策を具現化する、重要な拠点の1つである。</p>
所 感	<p>道の駅「パティオにいがた」はよく洗練されたデザインで首都圏からも人を呼び込める設計となっていた。食堂はピュッフェ形式で地元産の新鮮野菜を多用されていた。トイレも非常に綺麗で、販売所も明るく展示が洗練されていた。しかし、採算は減価償却費を考慮すると厳しい状況にあるように思われる。</p> <p>食堂の「農家レストラン」は、平日にもかかわらず満席であった。平成27年度は112万円の赤字ではあったが、このレストランコンセプトは道の駅構想中の松伏町において、大いに参考になるものであった。</p>

視察報告書（糸魚川市）

日 時	平成28年8月5日（金）午前10時から正午
視 察 先	新潟県糸魚川市
視察項目	子ども一貫教育の概要、市営博物館「フォッサマグナミュージアム」
視察目的	<p>糸魚川市でも人口減少の影響から学校の統廃合など、子どもを取り巻く教育環境の悪化が懸念されているが、地域発展の原動力は未来を担う人づくりにあるとの考えに立ち、校舎・児童生徒を一体化する小中一貫の教育ではなく、0歳から18歳まで一貫した教育方針の下に市民総ぐるみで取り組む教育施策を行っている。平成28年3月に見直して、新たに策定された糸魚川市「子ども一貫教育基本計画」は、自分に自信を持ち、糸魚川への愛情愛着が高まる子を育成する「キャリア教育」、体験・学習活動を通じたふるさと糸魚川への愛着を形成する「ジオパーク学習」、さらに、コミュニティスクール（学校運営協議会制度）で、学校と地域が元気になる「地域とともにある学校づくり」を進めている。また、市営博物館「フォッサマグナミュージアム」は子どもたちの教育施設として活用されている。これらの実態を視察し、松伏町の教育課題を検証する。</p>
視察事項	<p>子供一貫教育方針（市民総ぐるみで子育て）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○成長の時期に応じ、連続性を重視した教育</li> <li>○家庭、地域、園・学校がそれぞれの役割果たした交流・連携</li> </ul> <p>が大切との考えから「ひとみかがやく日本一の子供を育てる」ことを、家庭、園・学校、地域3者が協力しながら、子供の18歳での自立を目指すとしている。</p> <p>従って、県立高校との連携も図っている。</p> <p>基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－心・健康・学力のバランスのとれた子供を育てる</li> <li>－一人ひとりの個性を活かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てる</li> <li>－ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子供を育てる。</li> <li>－家庭、地域、園・学校が力を合わせて糸魚川の子供を育てる</li> </ul> <p>教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－健やかな体の育成</li> <li>－豊かな心の育成</li> <li>－確かな学力の育成</li> </ul> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携の進展</li> <li>○早寝・早起き・おいしい朝ごはん運動の定着             <ul style="list-style-type: none"> <li>－「生活リズムモンスター攻略ブック」を使って楽しく習慣化</li> </ul> </li> <li>○学校生活を楽しく送っている子どもが多い</li> <li>○地域行事に参加する子供の割合全国平均より多い</li> </ul> <p>重要な教育活動：「キャリア教育」「ジオパーク学習」</p> <p>(1) <u>キャリア教育</u></p> <p>自分に自信をもち、糸魚川への愛情愛着が高まる子の育成</p>

「キャリア教育」とは、自分らしい生き方を実現するための力を育むこと「職場体験活動ではない。キャリア教育を通して「自分の生き方を見つめる、自分自身を見つめる力を養い、学習意欲を醸成する。

－郷土愛：土への愛着・貢献する態度

－かかわる力：世の中で自立し、自分の役割を果たしながら生きていくために欠くことができない力（人間関係形成、社会形成能力）

－やりぬく力（課題対応能力）

－夢をおこす力（キャリアプランニング能力：社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要な力、企業できる力）

事例：海洋高校で商品開発を行い「すもう」とともにマレーシアを紹介  
⇒自分に自信を持ち、糸魚川に愛着を持つことを期待している。

郷土愛は心の安定をもたらし、心の安定が学力につながって自己肯定につながる。

## (2) ジオパーク学習

体験、学習活動を通じたふるさと糸魚川への愛着（関心を持ち、探求し、保全し、活用する力）や誇りを形成し、グローバルな視点・課題解決の視点・持続可能な発展の視点をもつ次世代の担い手を育てることを目的としている。

糸魚川市は糸魚川ユネスコ世界ジオパークに認定されている。このふるさとの地形・地質遺産、自然遺産、文化遺産の価値を知り、大地と生態、大地と人間との関わりに気づいていく学習をさす。

## コミュニティスクールについて

学校と保護者、地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。

視察内容 子ども一貫教育について、子ども教育課長山本氏より説明を受ける。

市内の園・学校の概況は次のとおり

幼稚園	公立	2校	保育園	公立	8
	私立	2校	認定子ども園	私立	10うち1認定子ども園
0歳から5歳まで 1739名					
小学校		16		2041名	11人の学校もあり
中学校		4		1147名	
高等学校		3		1193名	
特別支援学校（小・中）		1		24名	
特別支援学校（高）		1		16名	

## 一貫教育導入の経緯

平成21年度 0歳から18歳までの子供の一貫教育方針を策定。

市民総ぐるみで子育てを行うことを決める。

平成22年度 庁内機構改革を行い、子育て・教育に関する行政窓口を一本化。

教育委員会にこども課を設置、基本計画を策定する。

平成23年度 中学校区単位で具体的な実践。

その後、教育方針、基本計画の見直しを進め、28年度から35年度までの8年を前期、後期に分け実践する。4年にしたのは総合振興計画の関係から。

各学校で、グラウンドデザインを策定している。

目指す子ども像は「自ら考え 心豊かで 元気な子」(地域に学び地域を愛する子)

具体的な方策は 「分かる授業づくり」「社会性の育成」「健やかな体づくり」

「個のニーズに応じた教育」

教育環境と支援事業は、胎児期の ~0歳、0歳から3歳、4歳から6歳、7歳から12歳、13歳から15歳、16歳から18歳、18歳~ と細やかに支援策が設けられている。

0歳からの取り組みは、「遊びが学び」として、じゃれつき遊びなど親子の絆づくりを応援している。

成果として

生活のリズムとして、平成27年度全国学力学習状況調査結果から、

早寝・早起き・おいしい朝ごはん運動が定着している。

	全 国	糸魚川市
小学校	95.6	97.2
中学校	93.5	96.6



市では「9歳まではゲーム機・スマートフォンを持たせない」を合言葉に、親子や友達との遊びや自然体験を通して、早寝早起きおいしい朝ごはんがしっかり身につくことを目標にしている。

糸魚川市で活用している「生活リズムブック」



郷土愛についての調査結果では「今住んでいる地域の行事に参加している」割合は小学校、中学校とも全国を超えている。

	全 国	糸魚川市
小学校	66.9	90.1
中学校	44.8	56.2

#### 課題は

基礎学力の定着を目指して、学校と家庭がさらに連携しなければならないこと。家庭学習1時間以上の割合は 小学校は74.5%と全国よりも11.8%高いが、中学生になると55.3%で13.7%の減となり学習意欲の衰退が見られる。いじめ・不登校の問題がある。

26年度は細やかに調査した結果、60件のいじめを確認27年度は44件となる。不登校生徒は年々増加し、27年度は32名と前年度よりも9名増となる。

#### 高校との連携の推進は

学校長や有識者と意見交換を行っている。

#### 学校と家庭・地域との連携は

横の連携を強化。教育方針を保護者が承認するコミュニティスクール制度を導入することになった。

#### 糸魚川ジオ学を、家庭、地域、園・学校で実践。

豊かな心の育成、健やかな体の育成、確かな学力の育成をそれぞれが役割を持って取り組む。ふるさと学習は30年の歴史がある。地元就職が多い。アンケートを取ると20代では地元志向が7.5%もあるが、40代では60%に下がる。20歳から40歳に向けて下がる傾向があるが、糸魚川に残る子どもの割合は多いようであった。

学校統廃合については、今年度17校から16校になる予定ではある。統廃合はあくまで市民からの要望で行っている。



糸魚川駅<sup>北</sup>⇄フォッサマグナミュージアムを毎日運行している路線バス（運賃100円）  
小・中学生は6か月間市内バス路線乗り放題の「こどもフリーパス」で乗車している。（小学生1,500円、中学生3,000円）

	<p>コミュニティスクールについて</p> <p>糸魚川市では平成28年度から順次指定し、市内の全小中学校へと広めていくとしている。糸魚川市は小学校16校、中学校4校、県立高校3校、特別支援学校（小・中）1校、（高校）1校児童生徒数120－130人の小規模校が6校あり、複式学級も採用している。3学年1クラスの学級もある。9名の学習相談員を採用している。1名はスクールソーシャルワーカーである。</p>
所 感	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見附市と同様に糸魚川市の教育理念・方針・施策が明確で振れが無いように感じた。</li> <li>2. 子どものあるべき姿が地域と社会との関わりの中で明確に示されており、また、教育するための、質の高い環境と教材ツールが用意されているように思われた。</li> <li>3. 糸魚川市にある資源をうまく活用し、人材の育成に繋げ、郷土愛と誇りを持たせる教育は松伏町へも応用できるものと思う。松伏町にある自然、文化、人物、産業、歴史、芸術、芸能などを整理して質の高い郷土愛育成の資源として活用していくことが望まれる。</li> <li>4. 小規模校の統廃合は慎重に行うとしている。やはり、長い歴史と伝統ある学校が地域との関わりの中で培ってきた教育環境を軽々に壊すことは難しいし、無形の教育資源を簡単に失うことになるので、慎重を期すべきであろう。</li> <li>5. ひとみ輝く日本一の子どもを育てるという施策が出ている。世界ジオパークに指定されているだけに、糸魚川市の全ジオサイト、伝統文化、史跡、食文化等あらゆる分野にわたる学習用資料集がつけられている。 一貫教育といっても、地域内の児童数も最小で11名とか。学校運営からも統廃合や一貫教育の必要な地域と理解した。</li> <li>6. 市営博物館フォッサマグナミュージアムでは、地球誕生から日本の国土形成の過程やフォッサマグナから糸魚川市の誕生、ヒスイのことをスライドや展示物で見ることができた。博物館は、その館内で真剣に学習している高校生の姿からも、「子ども一貫教育」ジオパーク学習のふるさと理解からふるさと愛につなぐ中心施設であることを理解できた。地形、歴史が異なる松伏町でも、この施設の位置づけは参考になるものであった。</li> </ol>